

スポーツ

首都サンサルバドル市でスポーツ観戦に出かけると、様々な場所で、日本の支援を見つけることができます。

エルサルバドル・プロ野球が行われるサトゥルニーノ・ベンゴア球場では、日本の協力のもと改修・器材供与が行われています（2014年度）。2017年のプロ野球開幕戦始球式は、在エルサルバドル日本国全権特命大使が務めました（[クリック](#)）。



サトゥルニーノ・ベンゴア球場での試合の様子

その他にも、日本は、エルサルバドル国内の柔道場（2011年度）、卓球場（2013年度）、ウエイトリフティング場（2016年度）への器材供与を行っています。



供与器材でトレーニングを行う柔道家



そうした施設などには、JICAのボランティア隊員も派遣されてきています。エルサルバドルに対するボランティア事業は、1968年に中南米で初めて青年海外協力隊派遣取極が締結されたことで開始されましたが、開始当初の隊員の多くはスポーツ隊員でした。今日に至るまで、様々な種目に多くの隊員が派遣されてきており、柔道連盟に所属するボランティア隊員の教え子が、2012年のロンドン五輪に出場を果たすなど、エルサルバドルのスポーツの発展に大きく貢献しています。

2013年1月には、シドニーオリンピック金メダリストであり、JICA オフィシャルサポーターの高橋尚子さんがエルサルバドルを訪問し、卓球・柔道・陸上連盟の子供たちを対象に“より良い明日のために一緒に走ろう”というテーマでランニングイベントを実施しています。



ランニングイベントを開催する高橋尚子さん ([クリック](#))

近年日本は、スポーツを通じた国際貢献策「スポーツ・フォー・トゥモロー」を通じ、上記のような様々な協力を行うことでエルサルバドルにおける2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた気運を高めており、そうした協力は当地でも大きく報道されています ([クリック](#))。

こうした日本の取り組みは、青少年凶悪犯罪集団（マラス）の活動による治安悪化が大きな社会問題となっているエルサルバドルにおいて、スポーツ振興を通じた青少年の健全な育成を促す点で、大変重要な開発協力となっています。